

宇部・山陽小野田防災協会会長賞

「防災意識を強く持つことの意義」

山陽小野田市立高千帆中学校 3年 ^{ふじい}藤井 ^{ゆな}優奈

“お水は1家庭2本まで”。スーパーでこのような張り紙を見た。母と「南海トラフ地震が来るかもしれないからね。」と、カゴに水を2本入れた。コロナ禍の際に、どの店に行ってもマスクが手に入らなかったことを今でも鮮明に覚えている。

年明けの能登半島地震に始まり、先日の秋田、山形を襲った洪水も何の予告もなく急に襲ってきたものである。被災地の状況はマスコミでリアルタイムに報道される。その時は、防災意識を普段からもつようにと考えるが、時間の経過とともにその意識は確実に薄れていく。

今年の夏は残暑が続いており、被災地の方々の復興に向けての精神的なダメージや、体力を奪う大きな壁となっている。ライフラインはかなり復旧したが、住宅家屋の倒壊はまだ多く見られ、避難生活をしている人はまだ2千人もいるということを目にした。

私は今、現地へ行くことはできない。家族で何ができるのか話し合い、コンビニエンスストアに買い物に行った時に、レジカウンターにある募金箱に必ずお釣りを募金するということに決めた。被災地の復興にはとても足りないが、金額ではなく、支援しようという気持ちを全国民がもつことは欠かせないことだと思う。

父から、カターレ富山というJリーグのチームが被災地の方をサッカーの試

合に招待したり、サッカー教室を開催したりして、被災地を元気づけるプロジェクトを展開しているとの話を聞いた。お金だけではなく、モチベーションをあげる行動をとることも重要なのだと思った。

山口県も JR 美祢線が大雨の被害を受け、まだ不通の状況が続いている。行政と JR の努力の成果がまだ出ていない。JR 美祢線は生活の足として必要であることは言うまでもないが、山陽と山陰を結ぶ観光客の誘致にも大きな役割を果たしていると思う。クラウドファンディングという手法もある。他人事として放置するのではなく、私たちにできる最低限の行動を起こしていくことが必要ではないか。その結果、たくさんの笑顔と安心感でみんなが幸福になれるに違いない。

夏休みに入る前に、家族全員でハザードマップを見て緊急時の避難経路と場所を確認した。非常食も準備し、非常電源の確保をするなど、いつ地震が起こっても大丈夫なように準備をした。ただ、実際に起こってみると家族で話したような行動が迅速にとれるかが重要である。また、体の不自由な方や一人暮らしの高齢者の方など、周囲の方への配慮もしながら貴重な命を誰一人として失うことなく、今の生活水準を維持できるように心がけていきたい。

高校受験が終わったら、能登半島へボランティアをしに行き、私の笑顔を届けたい。

